

二〇一二年度 トキワ松学園中学校入学試験
適性検査型 適性検査 IA 問題用紙

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい

受験番号

次の**文章A**・**文章B**は、細胞生物学者・歌人の永田和宏が「知」について書いた文章の一部である。

ながたかずひろ

は受験勉強について「定石にあてはまるものは、定石通りに打つておけばいいのである。時間を無駄にすることはない。」と述べた後に続くものです。この二つの文章を読んで、あとの**問題**に答えなさい。

文章A

文章A しかし、碁でも将棋でも、実際の勝負ということになると、定石(定跡)にあてはまらないところでこそ、勝負が決するのである。定石を基本としながらも、定石で打ちかえせば負けるような打ち方を、相手は当然考えてくる。知つていなければ負けるが、定石通りに打つていては負ける、というのが実際の勝負の場であるはずである。大学を卒業して、たちまちに出会う社会での問題は、このような定石では太刀打ちできない問題であることのほうが圧倒的に多い。

文章B こんなことを考へている人がいたのかと思う。こんなひたすらな愛があつたのか、こんな辛い別れがあるのかと、小説に涙ぐむ。それらは「読む」という行為の以前には、知らなかつた世界ばかりである。それを知るということは、すなわち「それを知らなかつた自分」を知るということである。一冊の書物を読めば、その分、自分を見る新しい視線が自分のなかに生まれる。〈自己〉の相対化とはそういうことである。

(永田和宏『知の体力』による)

新潮新書 刊

〈言葉の説明〉

定石：囲碁や将棋で、最善とされる決まった打ち方、指し方。そこから、物事を処理する時の、決まった方法、手順。

相対化：他との関係の上に存在、あるいは成立していること。

問題

この二つの文章は、それぞれどのようなことを言いたかったのだとあなたは考えますか。解答らん①には、**文章A**について百字以内、解答らん②には、**文章B**について百四十字以内で、それぞれあなたの考えを分かりやすく書きましょう。なお、**文章A**については「定石では太刀打ちできない問題とは」という書き出しで、また、**文章B**については「自分を見る新しい視線とは」という書き出しで書きましょう。（それぞれの解答らんには、あらかじめ書き出しの語句が印刷されています。）

また、この二つの文章を読んで、あなたは「未来の社会を創造する」ためには何が必要だと考えますか。解答らん③に、あなたの考え方を、自分の体験や経験などを交えながら、いくつかの段落に分けて、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましょう。

（書き方のきまり）

- 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。
- 書き出しや、段落をかえるときは、一まず空けて書きましょう。ただし、解答らん①と②については、あらかじめ印刷されている語句に続けて書き出すこととし、段落をかえてはいけません。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 読点↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一まずに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じまことに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じまことに書きましょう。
- 書き出しや、段落をかえて空いたしますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのまますは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでていねいに消してから書き直しましょう。